

I 第21週の発生動向 (2010/5/24~2010/5/30)

1. 感染性胃腸炎については、県全体の届出数は減少しましたが、患者数が多い状態は続いていることから今後も注意が必要です。
2. 伝染性紅斑については、むつ保健所管内において第20週から**警報**が継続しています。

II 第21週五類感染症定点把握 注：五類感染症定点把握疾病の警報・注意報については、二次保健医療圏単位で判定しています。

青森県内の定点(医療機関)数については青森県感染症発生動向調査TOPページをご覧ください。

疾患名	東地方+青森市		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)	東地方(再掲)		青森市(再掲)	
	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点		数	人/定点	数	人/定点
小児科+内科 (85) インフルエンザ															0				
小児科 (74) RSウイルス感染症	1	0.1	2	0.2	1	0.1			1	0.2	2	0.5	7	0.2	7			1	0.1
(75) 咽頭結膜熱	2	0.2							3	0.5	8	2.0	13	0.3	-1			2	0.3
(76) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	13	1.4	6	0.7	5	0.6	1	0.2	5	0.8	5	1.3	35	0.8	-5	1	1.0	12	1.5
(77) 感染性胃腸炎	77	8.6	17	1.9	12	1.3	11	2.2	29	4.8	33	8.3	179	4.3	-30	10	10.0	67	8.4
(78) 水痘	6	0.7	9	1.0	6	0.7	6	1.2	6	1.0	12	3.0	45	1.1	4			6	0.8
(79) 手足口病			1	0.1	5	0.6			5	0.8	1	0.3	12	0.3	1				
(80) 伝染性紅斑	15	1.7			3	0.3			11	1.8	8	2.0	37	0.9	0			15	1.9
(81) 突発性発疹	4	0.4	5	0.6	3	0.3	2	0.4	9	1.5	3	0.8	26	0.6	6			4	0.5
(82) 百日咳					1	0.1							1	0.0	1				
(83) ヘルパンギーナ	1	0.1	4	0.4	3	0.3					1	0.3	9	0.2	4			1	0.1
(84) 流行性耳下腺炎	7	0.8	8	0.9	1	0.1	11	2.2	2	0.3			29	0.7	12	1	1.0	6	0.8
眼科 (86) 急性出血性結膜炎															0				
(87) 流行性角結膜炎	1	0.5					3	3.0					4	0.4	-2			1	0.5
基幹 (92) クラミジア肺炎															0				
(93) 細菌性髄膜炎															0				
(95) マイコプラズマ肺炎			5	5.0	5	5.0					5	5.0	15	2.5	7				
(96) 無菌性髄膜炎															0				

は警報、は注意報。「空欄」：患者発生無し。

III 表II以外の感染症法対象疾患

(注：届出状況は速報値です)

- (9) 結核(二類全数把握疾患)：弘前1人、八戸1人、五所川原2人、上十三1人、青森市2人 (22年計：98人)
- (58) アメーバ赤痢(五類全数把握疾患)：青森市1人 (22年計：2人)

IV 病原体検出情報

- ・病原体情報はありませんでした。
- ☞過去の全数把握疾患については、月報をご覧ください。

感染症の窓

マイコプラズマ肺炎

(五類基幹定点把握)

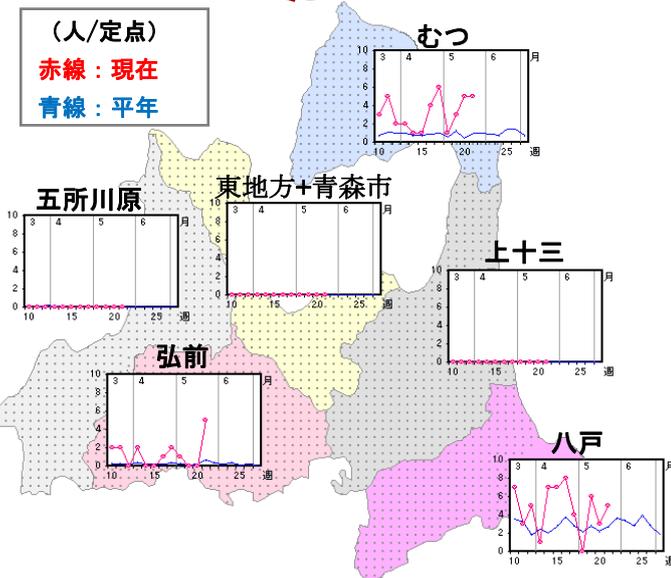


図1 保健所管内別届出数(青森県)

現在、八戸、むつ保健所管内では増減を繰り返し、弘前保健所管内では急増しています。

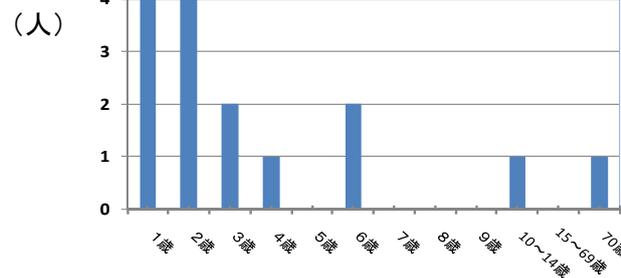


図2 年齢別届出数 (第21週 青森県N=15)

マイコプラズマ肺炎は、細菌に分類される *Mycoplasma pneumoniae* の感染によって発症する肺炎です。症状は、激しく頑固で、長期間にわたる乾いた咳、発熱、全身倦怠感などです。感染しても軽症の場合もありますが、当該週の届出患者の中には入院事例も含まれていました。年齢別患者数(図2)では、8割以上が6歳以下の乳児～児童です。潜伏期間は、2～3週間、感染は、飛沫感染によることから、家族内や集団生活の中で流行します。発熱などの症状がある場合は早めに医療機関へ受診することをお勧めします。